

県民モニター 第4回アンケート調査 結果概要

1 調査概要

- (1) 調査テーマ：「環境教育・学習について」
- (2) 調査対象者：県民モニター608名
(11月18日までの登録者)
- (3) 調査期間：平成17年11月18日(金)～11月29日(火)[12日間]
- (4) 調査方法：県ホームページ上のアンケートフォームに入力
- (5) 回答者数：352名(回答率57.9%)

参考 - 対象者及び回答者属性

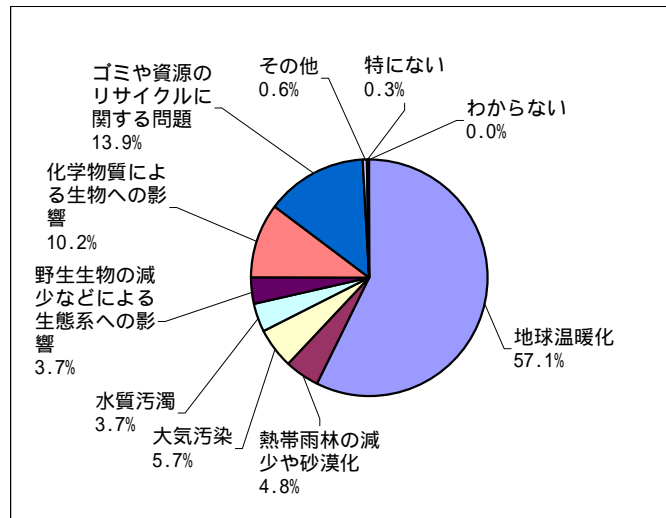
	対象者	回答者	回答率
総数	608	352	57.9%
(性別)			
男性	353	216	61.2%
女性	255	136	53.3%

2 調査結果

環境問題に関する意識や考え方

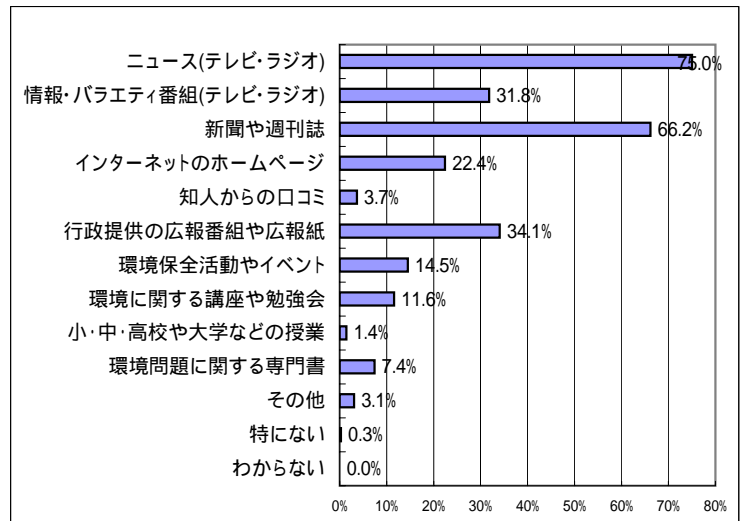
Q1 環境問題の中で最も気になる事から (1つ選択)

- | | |
|-------------------------|-------|
| (1) 地球温暖化 | 57.1% |
| (2) 熱帯雨林の減少や砂漠化 | 4.8% |
| (3) 大気汚染 | 5.7% |
| (4) 水質汚濁 | 3.7% |
| (5) 野生生物の減少などによる生態系への影響 | 3.7% |
| (6) 化学物質による生物への影響 | 10.2% |
| (7) ゴミや資源のリサイクルに関する問題 | 13.9% |
| (8) その他 | 0.6% |
| (9) 特にない | 0.3% |
| (10) わからない | 0.0% |



Q2 環境問題に関する情報や知識はどこから 得ているか(3つ選択)

- | | |
|-------------------------|-------|
| (1) ニュース(テレビ・ラジオ) | 75.0% |
| (2) 情報・バラエティ番組(テレビ・ラジオ) | 31.8% |
| (3) 新聞や週刊誌 | 66.2% |
| (4) インターネットのホームページ | 22.4% |
| (5) 知人からの口コミ | 3.7% |
| (6) 行政提供の広報番組や広報紙 | 34.1% |
| (7) 環境保全活動やイベント | 14.5% |
| (8) 環境に関する講座や勉強会 | 11.6% |
| (9) 小・中・高校や大学などの授業 | 1.4% |
| (10) 環境問題に関する専門書 | 7.4% |
| (11) その他 | 3.1% |
| (12) 特にない | 0.3% |
| (13) わからない | 0.0% |



Q3 これまでに得た情報や知識を得た手段や機会、内容で 特に印象に残っているもの(自由記入)

- 1 回答者の56.0%にあたる197人が記載
- 2 主な記載内容は以下のとおり

(手段や機会)

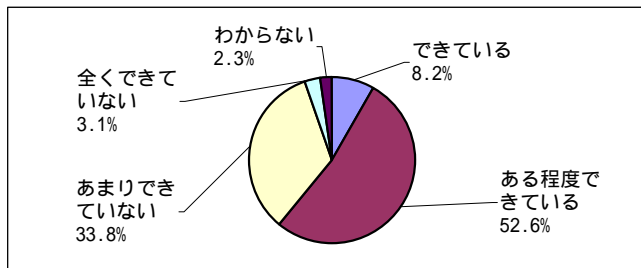
- | | |
|---------------------|-----|
| ・テレビのニュース、報道番組 | 27件 |
| ・学校の授業や各種講座、講演会など | 25件 |
| ・行政のイベントや行政発行の広報紙など | 19件 |

(内容)

- | | |
|-------------------------|-----|
| ・地球温暖化の現状 | 40件 |
| ・ゴミや廃棄物、リサイクルに関する問題 | 21件 |
| ・環境ホルモン等による野生動物や生態系への影響 | 13件 |

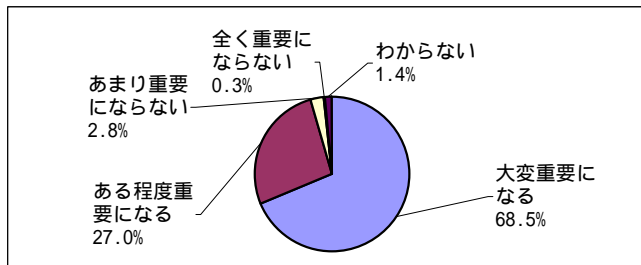
Q 4 環境に関して得た情報や知識は、身近な環境問題を解決する上で生活に活かすことができるか(1つ選択)

- | | |
|---------------|-------|
| (1) できている | 8.2% |
| (2) ある程度できている | 52.6% |
| (3) あまりできていない | 33.8% |
| (4) 全くできていない | 3.1% |
| (5) わからない | 2.3% |



Q 5 『環境教育・学習』は、今後、複雑化・多様化する環境問題を解決する上で重要になると思うか(1つ選択)

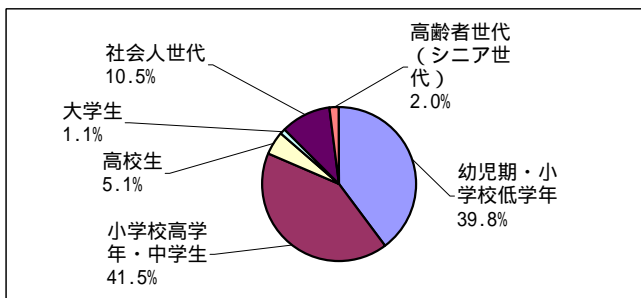
- | | |
|----------------|-------|
| (1) 大変重要になる | 68.5% |
| (2) ある程度重要になる | 27.0% |
| (3) あまり重要にならない | 2.8% |
| (4) 全く重要にならない | 0.3% |
| (5) わからない | 1.4% |



『環境教育・学習』で取り組むべき内容について

Q 1 どの年代に対する『環境教育・学習』が最も効果的か(1つ選択)

- | | |
|------------------|-------|
| (1) 幼児期・小学校低学年 | 39.8% |
| (2) 小学校高学年・中学生 | 41.5% |
| (3) 高校生 | 5.1% |
| (4) 大学生 | 1.1% |
| (5) 社会人世代 | 10.5% |
| (6) 高齢者世代(シニア世代) | 2.0% |



Q 2 Q 1でその年代を選択した理由及びその年代に対して効果的な『環境教育・学習』の内容(自由記入)

- 回答者の79.8%にあたる281人が記載
- 各選択肢ごとに最も多かった記載内容(理由及び効果的な内容)は以下のとおり

「幼児期・小学校低学年」(127人記載)

- | | |
|----------------------------------|-----|
| 理由: 小さい頃感じたことは成長しても忘れないから | 25件 |
| 効果的な内容: 環境にやさしい行動を生活習慣として身につけさせる | 17件 |

「小学校高学年・中学生」(110人記載)

- | | |
|------------------------------|-----|
| 理由: 環境問題を理解し始める年代だから | 33件 |
| 効果的な内容: 自然や施設などの現地で、自ら体験学習する | 19件 |

「高校生」(12人記載)

- | | |
|-----------------------------|----|
| 理由: 社会に出る直前に勉強することが大切と考えるから | 2件 |
| 効果的な内容: 高校授業の一環として実施する | 5件 |

「大学生」(2人記載)

- | | |
|-----------------------------|----|
| 理由: 専門的学問として継続的に学習する必要があるから | 1件 |
| 効果的な内容: 県立大学に「環境学部」を創設する | 1件 |

「社会人世代」(25人記載)

- | | |
|-----------------------------|-----|
| 理由: 大人が手本を示さないと効果がないから | 12件 |
| 効果的な内容: 公民館などでの講座やセミナーを開催する | 3件 |

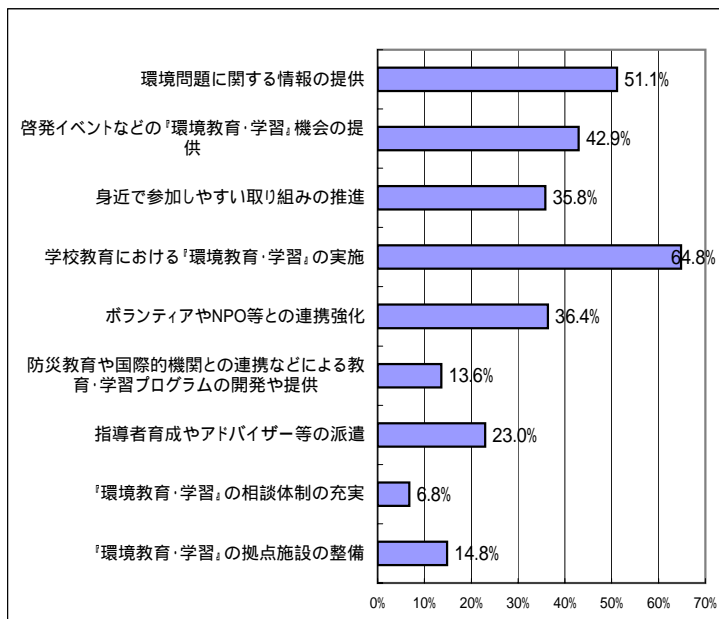
「高齢者世代(シニア世代)」(5人記載)

- | | |
|--------------------------------|----|
| 理由: 物のない時代を知ってる年代であるから | 3件 |
| 効果的な内容: 高齢者から支持されているテレビ番組で報道する | 1件 |

『環境教育・学習』における県の役割について

Q1 県が特に優先して実施すべきと思われる項目(3つ選択)

(1) 環境問題に関する情報の提供	51.1%
(2) 啓発イベントなどの『環境教育・学習』機会の提供	42.9%
(3) 身近で参加しやすい取り組みの推進	35.8%
(4) 学校教育における『環境教育・学習』の実施	64.8%
(5) ボランティアやNPO等との連携強化	36.4%
(6) 防災教育や国際的機関との連携などによる教育・学習プログラムの開発や提供	13.6%
(7) 指導者育成やアドバイザー等の派遣	23.0%
(8) 『環境教育・学習』の相談体制の充実	6.8%
(9) 『環境教育・学習』の拠点施設の整備	14.8%



Q2 Q1以外で県が取り組むべき内容(自由記入)

1 回答者の39.8%にあたる140人が記載

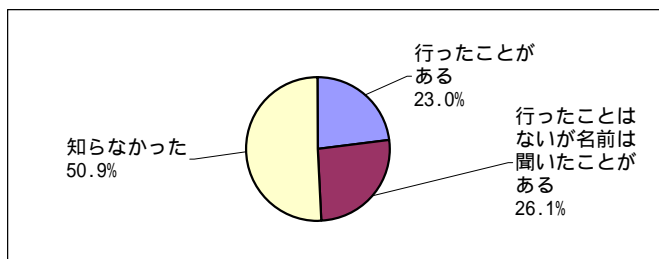
2 主な記載内容は以下のとおり

・広報の充実や正しい情報の公開	23件
・罰則等による規制強化と監視システムが必要	16件
・もっと自然環境について体験学習できる場を設ける	14件
・県、県職員が率先して実施し、その結果を公表する	12件

社会教育施設や博物館等との連携について

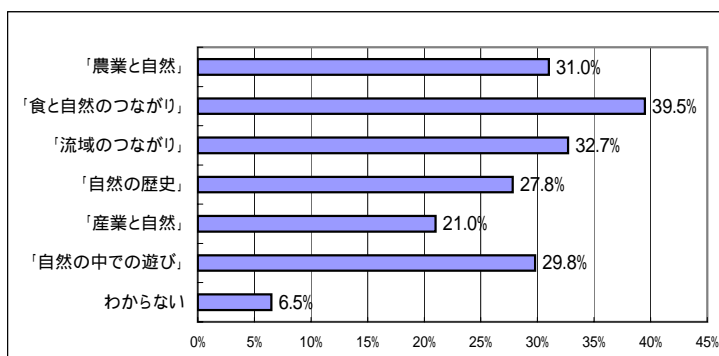
Q1 「県立人と自然の博物館(ひとはく)」を知っているか(1つ選択)

(1) 行ったことがある	23.0%
(2) 行ったことはないが名前は聞いたことがある	26.1%
(3) 知らなかった	50.9%



Q2 「ひとはく」で、環境についてどのような学習機会が提供されるとよいと思うか(2つ選択)

(1) 「農業と自然」	31.0%
(2) 「食と自然のつながり」	39.5%
(3) 「流域のつながり」	32.7%
(4) 「自然の歴史」	27.8%
(5) 「産業と自然」	21.0%
(6) 「自然の中での遊び」	29.8%
(7) わからない	6.5%



Q3 あなたが「人と自然のかかわり」を特に強く感じた場面について(自由記入)

1 回答者の57.1%にあたる201人が記載

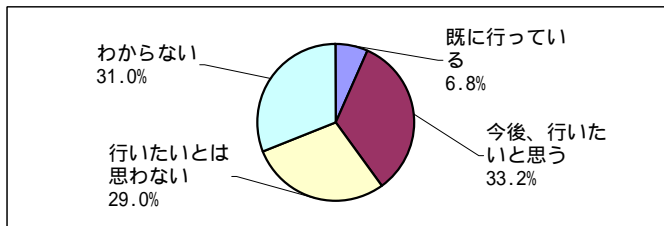
2 主な記載内容は以下のとおり

・川や田畑などの自然の中での遊び	53件
・作物の収穫や魚とり	34件
・台風や地震などの自然災害	22件
・ホテルやメダカなどの生物が見られなくなったこと	17件
・子どもの頃の生活(日常生活、実家での生活、もちつきなどの行事)	16件

NPO団体等が会費や寄附金を募り、環境保全活動を実施することについて

Q 1 こうした環境保全活動を行う団体への寄附や投資を行いたいと思うか(1つ選択)

- (1) 既に行っている 6.8%
- (2) 今後、行いたいと思う 33.2%
- (3) 行いたいとは思わない 29.0%
- (4) わからない 31.0%



Q 2 今後より多くの方々がこのような寄附や投資を行うようになるためには、県はどのような取り組みを行う必要があるか(自由記入)

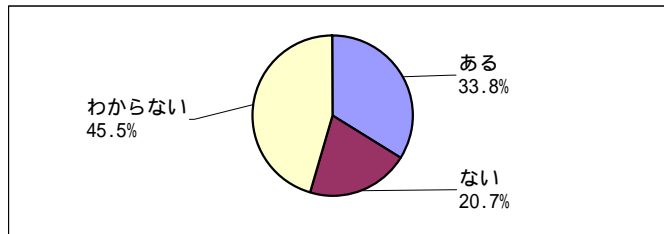
- 1 回答者の59.1%にあたる208人が記載
- 2 主な記載内容は以下のとおり

- ・広報の充実や正しい情報の公開 41件
- ・寄附金や投資した資金の用途等を公表し明確にする 36件
- ・寄附や投資に頼らず、行政が無駄遣いをなくし、実施すべき 21件
- ・必要性を訴えかける 16件
- ・行政による許可や認可、監督、指導等のシステムを設ける 14件

「ひょうご環境学校事業」について

Q 1 自然環境や環境問題を学習する際、お住まいの近くで活用できそうな場所や施設はあるか(1つ選択)

- (1) ある 33.8%
- (2) ない 20.7%
- (3) わからない 45.5%



Q 2 (Q1で「ある」と回答した人に対して) 具体的な場所や施設名(自由記入)

- 1 Q1で「ある」と回答した人(119人)の96.6%にあたる115人が記載
- 2 主な記載場所は以下のとおり

- ・六甲山
- ・六甲山自然保護センター
- ・武庫川
- ・有馬富士公園
- ・一庫公園
- ・加古川
- ・やしろの森公園
- ・コウノトリの郷公園
- ・各地域の公民館、コミュニティセンター
- ・学校の施設

Q 3 環境問題を正しく理解し、環境にやさしい生活を送るため自然や環境について、どのようなことをどのような方法で学んでみたいか(自由記入)

- 1 回答者の58.8%にあたる207人が記載
- 2 記載内容(合計230件 複数項目の記載あり)の主なものは以下のとおり

- (内容)
- ・ゴミ問題について 24件
 - ・参加しやすい生活に身近なこと 16件
 - ・地球温暖化について 11件
 - ・環境問題の経緯 4件
- (方法)
- ・学習会や講演会などへの参加 32件
 - ・キャンプなどの野外活動、体験活動を通じて学ぶ 24件
 - ・環境の現状や環境問題の対策などの情報を入手する 24件
 - ・ボランティア等が行う地域活動に参加する 10件